

桑野造船株式会社

〒520-0243 大津市堅田 1-21-2 TEL:077-573-8001 FAX:077-573-8002

URL: <http://www.k-boat.co.jp> E-mail: kuwano@k-boat.co.jp

世界選手権は無事、盛況裏に終わりました。次は岡山国体です。いずれも台風の機嫌をうかがうような日程調整を強いられている関係者のご苦労が痛いほど伝わってきます。ローイングは大自然の中で楽しむスポーツであるとの原点に戻れば台風もまた自然で折り合いをつけるしかありません。世界選手権のあと FISA (国際ボート連盟) 造船発展途上国支援プログラムの一環として昨年に続いて Klaus さん(独)に来社、指導いただきました。桑野も選手の方々に負けないように国際レベルに向けて努力をしています。【古川】

桑野造船 会社目標

未来に向かって進化

- お客様にとって役に立つ桑野になるために -
- * ヨーロッパ艇を超える(性能・デザイン・価格)
- * 新分野へ挑戦(新技術開発・ニューローイング開拓)
- * 情報の共有(顧客との共有・社内共有で失敗に学ぶ)

Mr. Klaus 氏から従業員への言葉

【訳: 香川】

2日間の滞在の最後に、Klaus 氏から従業員に向けて一言いただきました。Klaus 氏はボートの発展のために情熱をもって取り組んでおられることもあり、その言葉には重みがあり、我々にとってとても良い刺激になりました。

『世界のボートメーカーの製作レベルはどこでもほぼ似たり寄ったりだ。私たちは良いボートを造るために努力しなければならない。良いボートとは軽く、硬く、しかも安いボートである。すべてを満たすことは非常に難しいことではある。その中で軽いということは特に重要だ。例えば、軽いボートはキールにデッドウェイトを積むことができる。そうした場合、船体の重心が下がり、ボートのバランスが安定する。複数の漕手が漕ぐ種目では体重の違う選手が乗る場合に、ウェイトの前後位置の調整をすることにより、その効果は一層のものになるだろう。また、顧客にメーカーを認知してもらうためには艇にメーカーの特徴を出さねばならないだろう。ボディカラーはその最もたる例だ。そのほかに独自のボディデザインも重要な要素だ。そして、メーカーに必要なのはサービスの種類が多岐にわたること、そのネットワークの軽さだ。ボート建造、リペア、パーツ販売、サービスの数が拡大すればするほどいいだろう。』

最後に重要なことをひとつ言おう。私は今年73歳になった。来年は72歳、再来年は71歳…。私は年々若返っていくのだ。君たちは若い。老いている場合ではないぞ。チャレンジしたまえ。幸運を祈る。Thanks, see you again!』

千葉インターハイ報告

【森】

8月4日～7日まで、千葉県小見川町にてインターハイが開催されました。

配艇練習初日こそ雷雨で中止となりましたが、以降期間中は晴天続きで、熱中症が危ぶまれるほどの炎天下のレースとなりました。その中で長時間リギングされる選手・監督・コーチのみなさまの姿から、よりリギングしやすい艇を提供しなければということを感じています。今大会では男女シングルスカル、男女舵手付きクオドルブルで弊社艇をお使いいただきましたがいくつかのアクシデントはあったものの、無事全レースを終えることができました。

出漕クルーの方々を始め、艇整備にもご協力いただきました配艇係など役員のみなさま、補助員のみなさまにこの場を借りてお礼申し上げます。



世界選手権報告

【黄瀬】

桑野造船では、今回の世界選手権会場に於いて、中国 WUDI 社との共同ブースを設置しました。小径オールや新しいプリブレグボートを展示し、多くの選手やコーチの方に興味深く見ていただくことができました。現地でプリブレグボートの計量を行ってみた結果、どの艇種も規定重量より大幅に軽く、まさに世界の最先端をいくボートだと言わざるを得ません。

【プリブレグボート】プリブレグカーボンという最先端のFRP素材を使って造られたボートで、高剛性・超軽量が特徴。弊社で販売中です。

さて、レースの方を見ていて感じたことは、各国の選手がたいてい自国のメーカー製のボートを使っていることです。今回は残念ながら、日本代表クルーに KUWANO ボートを使ってもらえるチャンスがありませんでした。KUWANO のボートも性能では外国艇にひけをとりにません。私たちはそれをみなさんに知ってもらい、また選手にすべての点で満足してもらえるようなボート造っていくことが必要です。この大会では、そのことをあらためて痛感しました。

最後に、うれしいご報告を一つ。レンタル艇として使われていた KUWANO ボートでキューバの選手がAファイナルに進出(LW1×)。最終的には6位という結果でしたが、キューバにとって初メダルとなるか?! というような拮抗したレース展開で、KUWANO ボートも世界で十分通用するボートだということを証明できたのではないかと考えています。



BOAT TIMES の配信停止をご希望される方は、お手数ですが FAX (077-573-8002) 又は E-Mail (kuwano@k-boat.co.jp) で当社までご連絡下さい。また、ご意見・ご感想などもお待ちしております。

お手数ですがボート関係者へお渡しをお願いいたします。